

雪上訓練：谷川岳トマの耳

◆日程 2017年12月16日(土)～12月17日(日)

◆メンバー L：須田(健)、日比野、前田、小山田、津澤、岡村

岡村車(須田、小山田)、前田車(日々野、津澤)に分乗し谷川岳に向かう。前田車は内装を凝った新車で皆の目を引く。ロープウェイに乗って、天神平に着いた。雪上訓練の開始である。

12月16日(土) 天候：晴れ

天神平からアイゼンをつけて歩き出す。快晴、雲ひとつない。荷物は重いが心は軽い。少し行くと多くの人が雪上訓練をしていた。それを避けるように進む。夏道はブッシュの中のトラバースだが、ブッシュを避けて稜線を目指して進む。雪は緩く、ときどき踏み抜く。他の人が平気で歩く場所も、私だけが踏み抜くことがあった。原因は体重？自重トレーニングもほどほどにしたい。前田さんとこの苦労を分かち合おうとしたが、「一緒にしないでもらいたい」とツレない。



稜線に出た。それまで前のパーティで渋滞していたが、それを抜かす(彼らはそこで幕営)。眼下にリフトが見える。踏み抜きしない程度に雪も締まってきた。トレースをたどって楽しく歩く。途中、夏道のトラバースとの合流地点で、テント村があった。小ピークを越えて、熊穴沢避難小屋に着く。テントサイトを整地していたら、「撤収するので跡地を利用して良い」との申し出を受けて、ありがたく利用させてもらうこととなった。ダンロップ6人用には少し小さいので、拡張し、トイレを掘ったりした。

風もなく温かいので、テント設営後、谷川岳にアタックすることとなった。初日からピークを踏めるなんてラッキーだ。熊穴沢避難小屋から頂上付近を仰ぎ見ると、1つのピークを越えて、その次のピークが頂上のように見えた。そこと避難小屋との間に下山して来る人の姿が見えるが、大きく見えるので、それほど遠くないように思えた。

歩き始める。登り一辺倒だが、アイゼンが効く。どうやら下から見たピークは頂上ではなかったようだ。その場所を越え、肩の小屋の分岐に着く。小屋には寄らず、トマの耳に着く。景色は雄大で、オジカ沢の頭から平標方面の国境稜線、清水峠から白毛問までの馬蹄型稜線等が真っ白のクリームを塗りたくったような姿で見えた。なめらかで甘そうだ。東側に雪庇が張り出し、エビのシッポもあった。オキの耳には向かわずに熊穴沢避難小屋に下山した。ここまで、ほとんど無風だった。夜半にかけて雪が降り、風も吹いた。就寝後、私は諸般の事情で何度か外に出ることを余儀なくされたが、そのたびに雪深くなって、毎回、目的地へのトレースが消えていた。

(記：岡村)

CT : 谷川岳ロープウェイ土合口 09:50/10:10—天神平 10:40/10:50
—稜線 11:50/12:00—熊穴沢避難小屋 12:30/13:30—肩の小屋 14:00
—谷川岳（トマの耳） 15:10—熊穴沢避難小屋 16:15

12月17日(日) 天候：吹雪



予報通りとはいえ、初日の良き天候から一転、夜から雪が降りだす。夜中、シンシンと振り続ける雪の中、寝返りもままならない狭いテント内でガサガサと動く者がいる。「どうしよう、どうしよう」と独り言を言いながら探し物があつたのだろう、私は幾度も踏みつけられながらも寝たふりを貫いた。そして、その者がテント外に出て行くと静けさが戻る。なによりも一時だけだが広い空間ができたのである。今がチャンスと体を広げる。「大の字」とはいかな

いが、体と体の密着していた感触がなくなったのだ。小さな幸せを感じた瞬間でもあつた。その者が戻るまでは・・・。

5時の起床のアラームが鳴る。起きてみると周りの風景は一変していた。穢れのない純白でフカフカのバージンスノーだ。歩いてみると自分の足跡が踏まれ、心が躍り、ワクワクしてきた。少年になる瞬間でもあつた。朝食は津澤さんの担当でチーズリゾット。前日の夕飯担当だった小山田のチーズフォンデュと偶然にもチーズつながりがかぶってしまったが、チーズ大好きな私には大歓迎である。バランス良く野菜も投入し、山ご飯のレベルを超えたイタリアーナな美味しい食事でした。

熊穴沢避難小屋横に張ったテントを撤収し全員ワカンを装着して下山開始。すでにテンションはマックス。歩けば腰まで埋まる。私が先頭でラッセルし始める。準備運動なしのいきなりのラッセル。数メートル進んだだけで疲れて須田リーダーにチェンジ。昨日のトレースは完全に消えており、道筋もわかりづらい。それでも須田リーダーはピステンのようにつき進んでいく。スキー場に近づいてくると反対方向からのパーティーがこちらに向かってくる。お互いのトレースが合体する瞬間であつた。お互い労いの言葉を交わしながらすれ違って行く。

今回は滑落訓練を省いたが、ラッセルという意味では十分満喫できたと思う。これから冬本番を迎えるにあたり、雪山への山行も多くなると思われる中、今回の雪山訓練の大切さと、自分のスキル向上がより必要であると認識させられました。

そうそう、深夜にテント外に出て行った岡村氏が「諸般の事情から帰ってきたら、寝る場所なくなっていた」と嘆いていたが、「そうなんだ」と軽くスルーしておいた。諸般の事情ってなんだ??

(記：前田)

CT : 5:00 起床—8:00 熊穴沢避難小屋—10:30 谷川岳ロープウェイ山頂